

2. 地区の災害特性及び防災対策の方向性の補足（屋敷小学校区）

1) 地区内の人口状況：平成 25 年との比較

◆市総人口：161,047 人/H25 年 ⇒ 175,065 人/R5 年 【14,018 人増】

	H25 年 3 月		R5 年 3 月			備考
地区全体	10,886 人	⇒	11,765 人	★879 人の増加		
0 歳～ 9 歳	1,554 人	14.3%	1,627 人	13.8%	1,000 人	●全体として人口が増加また、14 歳までの人口も増加
10 歳～14 歳					627 人	
15 歳～19 歳					573 人	
20 歳～29 歳					1,110 人	
30 歳～59 歳					4,909 人	
60 歳～64 歳	6,849 人	62.9%	7,187 人	61.1%	594 人	●65 歳以上の人口数対生産年齢人口数比 ★1 人対 2.4 人
65 歳～69 歳					511 人	
70 歳～79 歳					1,352 人	
80 歳以上					1,087 人	
	2,483 人	22.8%	2,950 人	25.1%		

2) 丁目ごとの標高

◆花咲

丁目	最高	場 所	最低	場 所	高低差
1 丁目	22.6m	19 番 7 号付近の道路	12.6m	1 番 14 号付近の道路	10.0m
2 丁目	23.0m	13 番 13 号付近の道路	9.6m	12 番 13 号付近の道路	13.4m

◆屋敷

丁目	最高	場 所	最低	場 所	高低差
1 丁目	23.1m	10 番 17 号付近の道路	8.8m	1 番ふれあい公園南側	14.3m
2 丁目	23.1m	15 番 11 号付近の道路	8.4m	17 番 7 号小中の間道路	14.7m
3 丁目	23.7m	1 番 21 号付近の道路	9.3m	13 番 13 号付近の道路	14.4m
4 丁目	23.9m	5 番屋敷小川駐車場	15.1m	5 番芙蓉園駐車場	8.8m
5 丁目	24.5m	14 番 7 号付近の道路	15.4m	11 番 10 号付近の道路	9.1m

◆本大久保

丁目	最高	場 所	最低	場 所	高低差
4 丁目	23.3m	18 番 30 号付近の道路	8.7m	4 番 62 号付近の道路	14.6m

※国土地理院地図データから職員が手作業により、検索しているため、多少のズレ有

3) 丁目ごとの災害特性：全壊・半壊棟数＝千葉県北西部直下地震想定時

丁 目	揺れ		液状化	河川氾	内水氾	高潮	土砂災害
	全壊	半壊	全半壊	濫浸水	濫浸水	浸水	
花咲 1 丁目	66 棟	174 棟	0 棟	なし	302 棟	なし	0 棟
花咲 2 丁目	51 棟	125 棟	0 棟	なし	432 棟	なし	55 棟
屋敷 1 丁目	25 棟	60 棟	0 棟	なし	88 棟	なし	7 棟
屋敷 2 丁目	19 棟	38 棟	0 棟	なし	137 棟	なし	55 棟
屋敷 3 丁目	34 棟	69 棟	0 棟	なし	259 棟	なし	51 棟
屋敷 4 丁目	5 棟	10 棟	0 棟	なし	0 棟	なし	0 棟
屋敷 5 丁目	32 棟	60 棟	0 棟	なし	0 棟	なし	0 棟
本大久保 4 丁目	53 棟	110 棟	0 棟	なし	41 棟	なし	41 棟

4) 住民の視点から見た地区の災害特性：H25 年ワークショップ

連番	区 分	意見等内容
1	避難所・避難場所	◆花咲1丁目、2丁目の避難所や避難場所が、屋敷小学校と第六中学校と中央公園となっているが、東日本大震災の際には液状化等が発生しており、避難先としての安全性が不安である。
2	交通	◆屋敷小学校地区は、がけが多く、がけの際にある道路は災害時に車両通行できない可能性がある。
3	ライフライン	◆屋敷小学校などでは、地盤沈下による水道管破損が発生するおそれがある。
4	地域の連携	◆マンションの新設が進み、顔なじみでない住民が増え、災害時に連携できるかが不安である。
5	複合災害	◆屋敷近隣公園等では、地震災害と複合した有毒ガス等が発生するおそれがある。

5) 住民の視点から見た防災対策の方向性：H25 年ワークショップ

連番	区 分	意見等内容
1	防災体制	◆自主防災会で使用可能な無線を屋敷小学校に配置し、地区対策支部職員との連携を強化する。
2	避難経路	◆道路の沈下や通行不能等に備え、避難経路を各自で複数確保しておく。
3	救急・救護	◆AED設置場所の増設を進め、また設置場所の位置が分かるよう明示する。
4	情報共有	◆「避難したこと」を表示するなど、合図（マーク）を決めて、戸別ごとに掲げるようにする。
5	要配慮者対策	◆地域の危険な場所、高齢者独居老人宅等のハザードマップを地域で作成する。
6	地域の連携	◆民生委員や高齢者相談員、消防団、学校等と、防災について定期的に話し合う機会を設ける。